

「第 40 回 地域産官学と技術士との合同セミナーへの参加」 および「令和 2 年度 第 5 回 CPD 研修会@online」開催報告

1. はじめに

日本技術士会北海道本部では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、これまで対面式で開催していた技術セミナー、研修会等を早々に Web 配信に切り替えて、接触機会を最小限に留めた上での技術研鑽活動を図って参りました。しかし、感染予防対策の知見や「with コロナ時代」に対する新しいライフスタイルの広がりにより、人々の意識変化が進み、細心の注意を払うことでソーシャルディスタンスを確保した一部参加型(対面式)のセミナー開催を再開することができました。

開催の方策としては、開催会場の大きさから参加者可能人数を先着 70 名に限定した上で、それ以降の傍聴者にはオンラインで Web 配信を図るハイブリッド方式が採用されました。

本項では、このような新たな参加型研修方式の幕開けとも言えるセミナーにおいて著者が口頭発表の機会を与えて頂いたことから、道南に位置する「上ノ国町のまちづくり」についてご紹介いたします。

これらが実現できた背景には、潜在的に育まれていた基礎的、高度な技術力の他、北海道の恵まれた資源や、資源を有効活用するための政策、先輩技術者の技術力があつたからです。

一方、近年、日本や北海道を取り巻く内外の環境は大きく変化しており、地球温暖化の進展や、国際経済秩序の多極化、資源・エネルギー制約の他、国内的には、人口の高齢化、経済社会の成熟化、さらに情報ネットワーク化が進行しています。

このような環境変化により早く適応し、より良い北海道を創造するためには、これまでの変革の成功・課題に学び、これから進展する環境変化を理解した上で、我々北海道の更なる変革を行うべき時期と認識しております。

本フォーラムでは、上記を踏まえ、第 1 部で「北海道の歴史と生い立ち」を学び、第 2 部で「変化する北海道」を認識し、第 3 部で「令和の北海道」に必要な変革を各分野の取り組みや技術を踏まえ、共に考え、語り合えればと思っております。

2. セミナーの概要

「令和の北海道未来プロジェクト」

～令和維新 北海道から日本、世界を変革する～

開催日時：令和 3 年 2 月 26 日(金) 13:15～17:00

会場：ホテル札幌ガーデンパレス(2F 丹頂の間)

開催趣旨：

日本は、明治維新の頃、世界の強力な経済や軍事力への対応等の環境変化に太刀打ちするため、「殖産興業」、「文明開化」をスローガンに急速な近代化を進め、今日の経済的発展の礎を構築しました。

3. 第 3 部「令和の北海道」

上ノ国町のまちづくり(歴史・現在・未来)

(1) 上ノ国町の歴史

上ノ国のまちの概要として、道南日本海側の檜山地区の南端にあって、北側に江差追分が有名な江差町、南側には松前城桜まつりが有名な松前町に挟まれた自然豊かな土地に上ノ国町は位置しております。

町の面積は 547.7km²で、常夏の島グアムとほぼ同じ面積ですが、人口はグアム島の 3% 相当の 4,800 人に留まります。

集落は、山側は道道江差木古内線沿いを流れる天の川に沿って分布しており、豊富な水源を活用した農業が主産業であります。一方日本海側は国道 228 号の海岸線に沿って分布し漁業が主産業となっております。そして、この 2 系統が交わる場所が、町の中心地として市街地を形成しております。令和元年 10 月には 2 系統の交点に北海道初となるラウンドアバウトが完成し、まちのシンボルゲートとして供用されています。

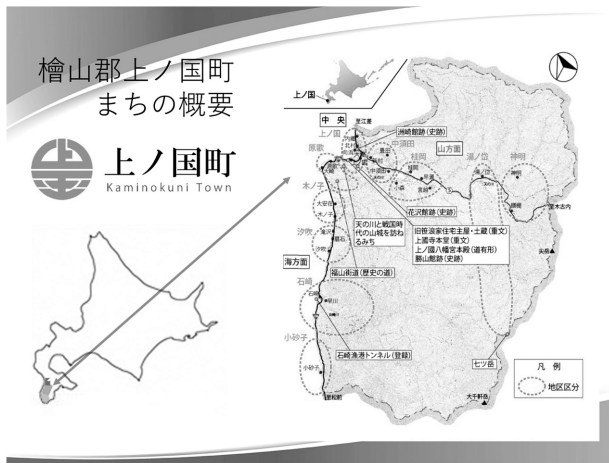


図-1 上ノ国町の概要図

上ノ国町は北海道内でも最も古い歴史と伝統をもつ地域であり、北海道文化・経済の「発祥の地」として、歴史・文化遺産の特性を生かした観光地づくりを推進しています。特に海岸線に沿って室町時代や江戸時代にまでさかのぼる貴重な文化財が残っております。



図-2 上ノ国町の史跡群

建造物では、北海道で現存する最古の民家旧笹浪家や上國寺、上ノ国八幡宮本殿などが現存しております。[笹浪家 19 世紀前半、上國寺(1560 年)平成 23 年改修、上ノ國八幡宮本殿(1699 年)]

史跡では松前藩の先祖の拠点として知られる上之國館跡を有し、いずれも国の指定文化財となっております。これらの文化財は、上ノ国町が室町時代や江戸時代の物流の拠点として、繁栄していたことを教えてくれます。

(2) 上ノ国町の現在

現在、再生可能エネルギーとして風力を活用した取り組みを積極的に行っております。風力発電所の始まりは、平成 4 年から 5 年にさかのぼります。

当時、風況調査を 1 年間実施したところ年平均風速で 5 メートル以上あれば風力発電の適地と言われておりましたが、6.4 メートルの結果を受けて、風力開発では全国でも有数の優良地として評価されました。

長年日本海沿岸の住民を苦しめてきた風を再生エネルギーとして活用することができたのです。

現在は、上ノ国第二風力発電所の建設に向けた取り組みを進めています。令和元年 6 月より建設工事が開始され、令和 3 年 9 月末の運転開始を目指して建設を進めています。さらに新たな計画として日本海、檜山海域における洋上風力発電所の建設について計画されています。



図-3 風力発電への取り組み

令和元年 10 月に供用を開始したラウンドアバウト(環状交差点)は、北海道開発局が主体となり、北海道、上ノ国町が連携して整備されました。

本交差点は、北海道で第 1 号である無信号の環状交差点であり、①安全性向上、②環境性向上、③交通円滑性向上、④経済性向上、⑤災害時の交通確保など多面的機能を併せ持つだけでなく、まちのシンボルゲートとして効果を発揮しております。



図-4 完成したラウンドアバウト

・上ノ国町ラウンドアバウト計画諸元

- ・環道外径 : 40.0m
(※路肩部は一次堆雪幅を考慮。)
- ・中央島直径 : 24.0m
- ・エプロン幅員 : 2.50m
- ・環道幅員 : 5.00m(+路肩 0.50m)
- ・設計車両: (主) 普通自動車
(副) セミトレーラー
- ・交通量(車): 10,000 台/日未満
- ・供用開始: 令和元年 10 月 11 日

(3) 上ノ国町の未来

ラウンドアバウトの整備に伴い、町では道路事業や周辺環境整備事業を計画し推進しているところがあります。

これまでに、ラウンドアバウトに接道する大規模な周辺道路整備や、バス停車帯の整備、バスの運行路線とするための整備を行っております。

令和 3 年度からはバス路線の運行開始と複合施設の建設を予定しております。

令和 4 年度は、このエリア全体の外構整備を行い、事業完了となる予定となっています。

令和 3 年度に建設予定の複合施設については、地区集会施設、町民ホール、24 時間トイレ、バス待合所等を兼ね備え、住民や来町者の憩いの場となるような施設を計画しています。

また周辺の商店街と連携した利用を考慮した導流方法、住民が集える広場としての機能を付し、商店街駐車場を含めこのエリア一体を「上ノ国川の川プラザ(仮称)」として整備を進めています。

将来ラウンドアバウト周辺が、来町者や住民の集える場所として、上ノ国町のまちのシンボルとなるように願いをこめて整備を推進しております。

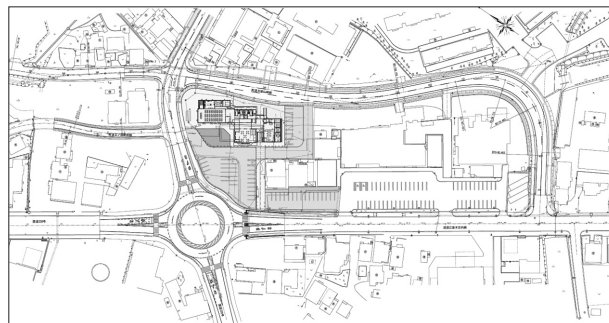


図-5 大留交差点周辺環境整備事業

(4) 道の駅「もんじゅ」の紹介

道の駅「もんじゅ」は、国道 228 号の海沿いにある道の駅で、景観が美しく、北海道ウォーカーの絶景感動部門で金賞を受賞しています。

素晴らしい景観に加え、レストランや地元の食材・施設内の工房で作った和菓子などを販売する特産品販売所、観光体験室や屋外トイレも新設しております。

道立自然公園内にあり、彫刻家、国松明日香氏のデザインによるモニュメント、「風の門」や「風の王」が設置されております。



図-6 道の駅「もんじゅ」

施設内の 2F には海側が一面ガラス張りのレストランを有しており、眼下に広がる日本海を眺めながら新鮮な海の幸・山の幸を堪能出来ます。中でも、甘ダレとフワッフワな身、サクサクとした衣の食感が人気の、町内産のヒラメを使った「てっくい天丼」がオススメです。この他にもまちの名産品を集約し販売している売店なども充実しており、楽しくお時間を過ごして頂けると幸いです。

4. おわりに

著者は、上ノ国町に勤務する自治体職員ではございませんが、施設計画に携わったご縁で今回の発表の機会を頂きました。主催された日本技術士会北海道本部事業委員会の方々にお礼申し上げますと共に、今後も北海道の地域発展に貢献できるよう、まい進して参ります。

最後に、本セミナーについては道南技術士委員会のサテライト会場に中継されており、函館会場にてセミナー受講が可能となりました。このような配慮により今後技術士会本部と地方委員会の更なる連携強化が期待され、またその一助となれることを大変嬉しく思っております。



図-7 サテライト会場(函館)での中継状況

5. 令和2年度 第5回 CPD 研修会@ online

(1)開催趣旨

令和2年3月5日(金)に本会では第5回目となるCPD研修会をオンラインで開催致しました。今回の研修会では、テーマを「技術士資格取得のプロセスや資格取得により得られるメリット」として、ベテラン技術士の方にご講演を依頼しました。

(2)『技術士取得までの道のりと二次試験対策について』 株式会社東鵬開発 吉田 一雄 氏(63)

技術士:下水道(H9)、森林環境(H29)、森林土木(R1)
樹木医(R1)

はじめに、ご本人の自己紹介をされた上で技術士資格受験の動機や難関とされる「樹木医」の資格取得のプロセスを自らに起きたエピソードを交えながらコミカルにご講演されました。どれもとても興味深

い内容で、お話も上手なため、参加者は楽しみながらお聞きすることができました。

あきらめは毒 夢は薬

美容アドバイザー
佐伯チズ氏
「夢は薬 諦めは毒」より

図-8 吉田一雄氏の自訓

(3)『技術士取得までのプロセスとその後』

株式会社ノース技研 布村 重樹 氏(61)

技術士:下水処理(H3)、総合監理(H14)、土質及び基礎(H15)、森林土木(H26)

道南技術士委員会で代表を務められている布村さんは、自らの技術士受検のプロセスと共に受検するにあたり、どのような学習をすることが資格取得の近道であるかを示されました。また、資格取得後のネットワークの広がりや量的メリットについても詳しく教えて頂きました。

GRHABIPの目標

- コンクリート物語を題材として、埋もれた遺産・資源の価値創造を行う仕組みを構築する。
- ・遺産に関わるストーリーを発掘する仕組み
- ・冊子やHPなどに記録を構築・更新する仕組み
- ・情報を発信し、広め、楽しんで貰う仕組み
- ・ガイドを要請する仕組み
- ・旅行商品を企画し継続的に販売する仕組み
- ・文化財、日本遺産、世界遺産登録の仕組み
- ・遺産を資産として保存する仕組み

49

図-9 布村重樹氏の新たな目標

(4)まとめ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の要請から今年度は年次予定数の研修会開催が一時、危ぶまれましたが、道南技術士委員会幹事会のたゆまぬ努力と北海道本部開催研修会のサテライト視聴支援のおかげをもって、予定数を達成することができたことを大変嬉しく、また参加頂いた方々に感謝しております。ありがとうございました。